



# 日本語教育プログラム 日本語教育（基礎）プログラム ガイダンス

※創価大学文学部の特修プログラムは、2018年度より、4年次春学期までならいつでも登録できるようにになりました。上級年次生にも適用されます。

# 日本語教育プログラム

- 本格的な日本語教師を目指す人の主専攻プログラム
- 必ず異文化コミュニケーション《日本語》メジャーに登録
- 異文化コミュニケーション《日本語》メジャー科目から**45単位**以上、そのうち日本語教育科目（\*別表）から**38単位**以上修得する。
- **（注1）「日本語教育実習」は本プログラムの必修科目となりますので、必ず受講してください。（2017年度生以降）**
- 2017年度以降の入学生は**「日本語教育実習」1単位以上**を取得していないと、国内の**「法定日本語学校」**に採用されません。
- **（注2）他メジャーの「演習 I ~ IV」は該当しません。**

# 日本語教育(基礎)プログラム

- 外国滞在時の一時的な仕事としての日本語教師やボランティアとしての日本語教師、等々に役立てる副専攻プログラム
- どのメジャー(学部)からでも登録できます
- 異文化コミュニケーション《日本語》メジャー科目から**26単位**以上、そのうち日本語教育科目(\*別表)から22単位以上修得する。
- (注)他メジャーの「演習 I ~ IV」は該当しません。
- 日本語教育プログラムと日本語教育(基礎)プログラムの両方に登録することが可能

# 2018年度生用カリキュラム

授業科目	単位	年次	授業	授業科目	単位	年次	授業
* 日本語教育概論Ⅰ	2	1	春学期	* 社会言語学	2	2	春学期
* 日本語教育概論Ⅱ	2	1	秋学期	* 現代日本語文法A	2	2	春学期
* 日本語コミュニケーション論	2	1	秋学期	* 現代日本語文法B	2	2	秋学期
* 対照言語学Ⅰ	2	2	春学期	* 日本語教育学特講A	2	2	春学期
* 対照言語学Ⅱ	2	2	秋学期	* 日本語教育学特講B	2	2	秋学期
* 日本語音声学	2	1	春学期	* 日本語教育学特講C	2	2	秋学期
* 日本語教材研究Ⅰ	2	2	春学期	* 日本語教育実習	2	4	秋学期
* 日本語教材研究Ⅱ	2	2	秋学期	* 演習Ⅰ(注)	2	3	春学期
* 日本語教授法Ⅰ	2	2	春学期	* 演習Ⅱ(注)	2	3	秋学期
* 日本語教授法Ⅱ	2	2	秋学期	* 演習Ⅲ(注)	2	4	春学期
* 異文化コミュニケーション論	2	2	春学期	* 演習Ⅳ(注)	2	4	秋学期
* 日本語の表現	2	2	秋学期				

※日本語教育プログラムでは「日本語教育実習」が必修です。(基礎Pでは不要)

# 2017年度生以前用カリキュラム

授業科目	単位	年次	授業	授業科目	単位	年次	授業
* 日本語教育入門	2	1	春学期	* 社会言語学	2	2	春学期
* 日本語教育概論 I	2	1	春学期	* 現代日本語文法A	2	2	春学期
* 日本語教育概論 II	2	1	秋学期	* 現代日本語文法B	2	2	秋学期
* 日本語コミュニケーション論	2	1	秋学期	* 日本語教育学特講A	2	2	春学期
* 対照言語学 I	2	2	春学期	* 日本語教育学特講B	2	2	秋学期
* 対照言語学 II	2	2	秋学期	* 日本語教育学特講C	2	2	秋学期
* 日本語音声学	2	1	春学期	* 日本語教育実習	2	4	秋学期
* 日本語教材研究 I	2	2	春学期	* 演習 I (注)	2	3	春学期
* 日本語教材研究 II	2	2	秋学期	* 演習 II (注)	2	3	秋学期
* 日本語教授法 I	2	2	春学期	* 演習 III (注)	2	4	春学期
* 日本語教授法 II	2	2	秋学期	* 演習 IV (注)	2	4	秋学期
* 異文化コミュニケーション論 I	2	2	春学期	* 異文化コミュニケーション論 II	2	2	秋学期

※日本語教育プログラムでは2017年度生のみ「日本語教育実習」が必修です。

# 日本語教員資格ガイドライン

- 文部科学省の日本語教員資格ガイドライン
- 1. 大学(短期大学を除く)において日本語教育に関する主専攻(日本語教育科目45単位以上)を修了し、卒業した者。⇒日本語教育プログラム
- 2. 大学(短期大学を除く)において日本語教育に関する科目を26単位以上修得し、卒業した者。⇒日本語教育(基礎)プログラム
- 3. 日本語教育能力検定試験に合格した者。
- 4. (省略)

# 法務省告示日本語学校の新基準

- 日本語教育機関の法務省告示基準
- 平成29年8月1日より施行
- 全ての教員が、次のいずれかに該当する者であること。
- 大学・大学院の日本語を主専攻とする学部において、日本語教員資格に示された日本語教育科目45単位以上を修得していること
- 45単位のうち**教育実習1単位以上**を必ず含むこと  
⇒**2017年度入学生から厳格に適用されます。**

[参考]法務省告示日本語学校一覧

<http://www.moj.go.jp/content/000107266.pdf>

# 国語科教職課程との併修について

- 日本語教育プログラム／日本語教育(基礎)プログラムの登録者には国語科教職課程／教員養成特修プログラム《国語》との併修をお奨めします。
- 理由1 重なる履修科目が多い。
- 理由2 日本語教育と国語教育の知識・技能は相互に役立つ。
- 理由3 職業選択の幅が広がる。いろいろなチャンスが生まれる。

# 日本語インターンについて

- 交換留学Aグループ(2月～1月の1年間)
- 学業成績、志望理由書、面接で選考(学科試験なし)
- 日本語教育プログラムの単位に読み替えが可能
- 創大より国際奨学金を給付＋先方大学より給与あり
- **マカオ大学**(中国マカオ特別行政区)
- 日本語会話授業を担当。
- 広東語、普通語、英語が通じる。
- **湖南師範大学**(中国湖南省長沙市)
- さまざまな日本語クラスを担当。
- 中国語の勉強も可能(有償)。

# 大学院進学の奨め

- 大学の付属日本語教育機関や民間の大手日本語学校では、修士号以上を取得していることが採用条件となっている。
- 大学院修了によって日本語教師採用の選択肢が大きく広がる。
- 青年海外協力隊や国際交流基金の派遣日本語教師も圧倒的に大学院修了者が有利。
- 中学高校国語科教員採用試験は難関だが、大学院で専修免許を取得すると合格率が上がる。

# 大学院 日本語教育専修について

- 創価大学大学院文学研究科 国際言語教育専攻  
日本語教育専修 2009年に開設。
- **日本語教育**と**国語教育**の両方に対応
- **中国、台湾、豪州、ブラジルなどの海外大学に1年間の日本語インターンの機会がある。**
- **修了者は中国、フィリピン、メキシコ、キューバなど、世界各地で日本語教師として活躍**
- **中学・高校教諭(国語科)専修免許が取得できる。**
- **修了後に総合学習支援センター助教(学術文章作法担当)、日本語日本文化教育センター助教として、3年間着任できる。**

# 大学院 日本語教育専修カリキュラム

基礎科目 (必修)	第二言語習得理論Ⅰ	2	専門科目	コミュニケーション研究Ⅰ	2
	第二言語習得理論Ⅱ	2		コミュニケーション研究Ⅱ	2
	日本語教育研究法Ⅰ	2		言語教育政策研究	2
	日本語教育研究法Ⅱ	2		日本語教材研究Ⅰ	2
	日本語教授法Ⅰ	2		日本語教材研究Ⅱ	2
	日本語教授法Ⅱ	2		日本語語彙表現研究Ⅰ	2
演習科目 (研究指導)	日本語学演習Ⅰ	2		日本語語彙表現研究Ⅱ	2
	日本語学演習Ⅱ	2		現代日本文学研究Ⅰ	2
	日本語学演習Ⅲ	2		現代日本文学研究Ⅱ	2
	日本語学演習Ⅳ	2	演習科目 (実践演習)	日本語教授法実践演習Ⅰ	3
	日本語教育学演習Ⅰ	2		日本語教授法実践演習Ⅱ	3
	日本語教育学演習Ⅱ	2		日本語教授法実践演習Ⅲ	3
	日本語教育学演習Ⅲ	2		文章表現指導法実践演習	3
	日本語教育学演習Ⅳ	2		読解指導法実践演習	3
	国語教育学演習Ⅰ	2	実習科目	日本語教育実習	1
	国語教育学演習Ⅱ	2		海外日本語教育実習Ⅰ	1
	国語教育学演習Ⅲ	2		海外日本語教育実習Ⅱ	1
	国語教育学演習Ⅳ	2			